

雨のソウル旅行—①下

(2018年5月15～19日)

関根 茂子

■5月18日(金) 雨

今日は、韓国山岳会のS姉の友人と地下鉄5号線のクアンナル駅で10時に待ち合わせ、いっしょに山を歩いて浅川巧のお墓まで案内してくれるのだが、山歩きするなら、雨具上下、杖は必携だ。どうするか決めないと荷物が分けられない。さんざん迷ったが雨の山歩きは遠慮したいと「お墓だけに連れて行って」と頼むことにして杖もポットも宿に置いていく荷物に入れて、軽装で待ち合わせのクアンナル駅へ。

1時間も前に到着、広場のベンチで待っているとハイキング姿の年配の男性が次々、上がってくる。なるほどこの駅は軽いハイキング起点駅なのだ。

約束の10時にばっちり登山姿で現れたのは何年前かに白雲台ハイキングでお世話になった韓国山岳会の曹東植(チョ・ドンシク)氏だった。「雨もたいしたことはない。とりあえず峨嵋山(アチャサン)まで往復2時間ぐらいだから行きましよう」と彼に引っぱられて歩き出す。屋並みを縫って15分ほど歩いて行くと登山路の入口、スキー場にある雪を吹き飛ばすエアガンがいくつもある。登山後、靴や服についた土や埃をとるためのものだという。

登山道はなだらかな舗装路続きで小雨でも比較的歩き易い。峨嵋山駅からの登山道を合わせると「峨嵋山は三国時代に高句麗と新羅が戦った古戦場」と記されたハングル、中国語、日本語併記の説明板があった。大きな花崗岩の岩盤が現れ、それを回り込んでいくと水場と休憩所があり、保育園らしき子供の一団と年配の韓国人グループが休んでいた。「日本から来た」と言うと韓国人男性がトマトとコーヒーをふるまってくれた。そこから松林の道を行くと高句麗亭なる八角亭が



光化門広場の世宗大王像、背景は北漢山

建っている。さらに登り板敷きの展望台に出るも、景色は霞んでいた。

幅広の尾根道をたどる。右下は漢江(ハンガン)だ。筵敷きの登山道を過ぎると第4保塁で、ここが峨嵋山山頂(標高295.7m)とのことだ。階段を下り、次は階段登りで展望テラスに着く。チョさんのザックから出てきたクッキーと温かいお茶でひといき入れる。目の高さにさっき歩いた筵の尾根がよく見え、結構歩いてきたと実感。

龍馬山(ヨンマサン)は割愛。雨が強くなったので傘をさして目的の忘憂里公園墓地に急ぐ。そのうち林の中に点在する墓が現れ、50分ほど歩いたあずまやで小休止、墓地公園案内の地図があった。さらに10分できれいに整備された浅川巧の墓に着いた。

通りかかった公園整備の作業車をチョさんが停めて、私たちを下まで乗せてくれるように頼んでくれる。おかげで墓地公園入口まで車なら5分足らず、おおいに助かった。あとは、新興の街中を地下鉄駅まで歩くだけだ。途中の青少年キャンプ施設で彼曰く「自分はマイカーで日本に渡り77日間で100名山を45座、登った。泊まりは



アチャ山駅からの遊歩道合流点の石碑

ほとんど、このようなキャンプだった」に驚嘆。

13:42、下りついた養源(ヤンウォン)は新しい京義中央(キョンイ・チュンアン)線の駅で地下鉄とはいえ高架駅だった。清涼里(チャンニャンニ)で1号線に乗り換え、私たちは鍾路5街で下車、チョさんは「夕食には中途半端な時間だから今日はこれまで」と地下鉄に乗ったまま去っていった。

昨日の市場で海鮮チヂミとネギのパジョを食べ15:30宿に戻って、荷物をまとめて仁川のホテルに向かう。ところがソウル駅で空港鉄道の乗換に地上に出てしまいウロウロ、空港鉄道も直通と普通電車の乗り場が違い、切符の自動販売機も別物なのだ。

やっと普通の切符販売機を探し当て、終点の第2ターミナルまで行く。第2ターミナルの案内所でスカイホテルへ迎えの車依頼の電話を入れてもらおうと「車には第1ターミナルからでないと乗



おいしかった海鮮チヂミ

れない」といわれる。切符を買って、第1ターミナルに戻る、再度、電話しようと案内所を探していると、親切な男性が自分の携帯電話でホテルに通話「10分後に着く。いつもの送迎待ち合わせ場所3階7番出口で待つように」とのことだった。でも1時間たっても、車は来ない。ターミナル内に戻り、案内所でホテルに電話を入れてホテル着は7時過ぎ。雨は止んでいた。

行きつけの参鶏湯(サムゲタン)専門店最後の夕食(@13000)後、小型スーパーで韓国海苔を買う。

■5月19日(土) 晴

ホテルに荷を預けて、お土産のトウモロコシ髭茶を買いに大型スーパーへ。10時開店までしばらく待った。空港に送って貰い、豪華な定食の昼をとっても@26000₩の返金があった。仁川15:55発アジアナ航空便は30分遅れて出発、成田19:00着で無事帰国。 (終り)